

Case Study #56 ホームネット株式会社様

働き方を変え、挑戦を可能にするオフィス

An office which makes challenges possible Homenet K.K.

Established in 1991 as a joint business by an insurance company, a trading firm, and a security company, Homenet provides various services to support elderly people living at home. Lilycolor supported the office relocation and design to a newly built office building near the Homenet's former office. The purpose of the relocation was to prepare enough space for the growing number of employee and provide a comfortable office for them. A good office will improve trust as a company and also have a positive effect in recruiting excellent human resources. Making best use of the scenery and natural light from the window, the work space is neatly set and easy to see who is where, doing what. Monitor displays are placed at meeting spaces so that people gathered can share the materials without hardcopies. Relaxation space has various types of tables and chairs, which are popular among the employees at lunch time.

ホームネット株式会社は1991年に損害保険会社、商社、警備会社を中心となって設立した在宅高齢者向けサービスを提供する会社である。利用者の住む地域の事業者と連携をとりながら、日々の見守り・緊急対応から住宅住み替え支援まで、ホームネットグループとして総合的な生活サポートを展開し、加速する高齢化社会のインフラ整備に深くかかわっている。

同社は従来ビルの2フロアを使っていたが、事業が拡大するにつれて人員が増え、オフィスは手狭になっていった。増員分のワークスペースを確保するために、社員の食事・休息スペースが削られ、度重なるレイアウト変更にも費用がかかる。増床のために新たなフロアを借りることも検討していた時期に、近隣に新しいビルが建設されるという情報を得て、2016年6月の移転が決定した。この新しいビルでのオフィスづくりを全面的にリリカラがお手伝いさせていただいた。

新しいオフィスに同社が求めたことは大きく分けて3つある。まず社外の人にも堂々と見せられる、信頼感を与えるオフィス。社員のモチベーションを上げるための職場環境の改善。そして優秀な人材確保のための採用力アップだ。面談時に「ここで働きたい」と感じてもらえるようなオフィスを目指した。

新しいオフィスは大きく執務スペースとコールセンターに分かれる。全体的にオープンで見通しが良く明るいのが印象的である。フリーアドレス制を本格的に導入し、外勤の社員の席数の効率化を図り、個人用のモバイルロッカーを設置したことで、机回りもモノが少なく、すっきりとして無駄がない。



コーポレートカラーで統一されたオープンスペースでは、部門を超えた社員の交流が生まれる



フリーアドレス制を本格的に導入し、外勤社員の席数も効率化





モチベーションアップのため、社員の職場環境を整える



窓際のカウンターテーブルは高層階ならではの眺め



什器の中でも特にイス選びには重点が置かれた。長時間のデスク作業の効率はイスによって大きく変わる。リリカラがご提案したのは、オカムのslyphy。背もたれのカーブなど、座る人の体に合わせた調整機能を備え、オフィス用に人気の高い実用的なイスである。ホームネットのコーポレートカラーで揃え、明るい統一感のあるオフィスになった。

今回ワンフロアのオフィスを実現したことで、社員同士の動きにも変化が現れた。たとえば以前は内線電話をかけて話していた相手に、今は直接話しかける。他部署の朝礼の良いところを取り入れる。あるいは隣の部署が全員不在とみれば、鳴っている電話をとるなど、部署同士の交流やお互いから受ける刺激も会社を活性化する大きな要因なのである。

また「ペーパーレス」は多くの会社が目指すところであり、同社でも移転前から目標に掲げていたが、打ち合わせスペース各所にモニター画面を設置したことで一層ペーパーレスが推進された。従来のように全員分の説明資料を紙で用意する必要はなく、モニターに映し出して説明できるのだ。

リフレッシュスペースには文字通り気分を変えられるように、様々なタイプのテーブルとイスをカラフルに配置した。スタンダードなタイプの他に、ペンダントライトがガラリと雰囲気を変える窓際のカウンターのハイチェア、そしてファミレストタイプのベンチ。リフレッシュスペースは昼食時、多くの社員の方に利用されて

いると伺った。都心の眺望が目の前に広がる窓際の席はすぐに埋まるそうだ。またファミレストタイプのベンチは、朝や昼は食事スペース、就業時間中は打ち合わせや個人面談と、時間帯によってさまざまな使われ方でフル稼働しているとのこと。

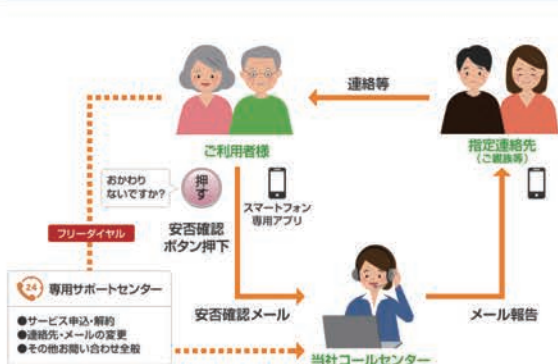
ビルの高層階ならではの眺めは、会議室にも活かされている。外光をワークスペースに取り込む為に間仕切りはガラスパネルを採用。会議室の中の気配もわかりやすく運用がスムーズになり、無駄な待ち時間を減らすことが出来たそうだ。

同社には前向きな挑戦をよとする文化があるという。社員が安心して新しいことにチャレンジできる基盤となるオフィスを築くことも今回の目的だったそうだ。

お話を伺った同社取締役・経営管理部長の榊原啓之様には「移転の工程や各業者との窓口はリリカラさんにお任せして、私は必要なポイントで判断を下すだけでスムーズにプロジェクトが進んだので大変助かりました。費用面も含めてアドバイスもありがたかったです」とおっしゃっていただきました。

取材に伺った際も、すれ違う社員の方々は誰もが明るくあいさつして下さい、和やかな雰囲気の中にきびきびとしたやる気があふれていた。新しいオフィスは外部の方だけでなく、グループや他の支社からも評判は上々とのこと。全国展開するホームネットにとって、この新しいオフィスは標準化モデルとなりそうだ。

見まもっTEL



お父様、お母様を故郷に残し、離れて生活する方。久しぶりに実家に電話をしたら「実は具合が悪くて先月入院していた」と言われた、といった経験はありませんか？と言っても、忙しい生活の中で、こまめに連絡を取るのには難しいし、気恥ずかしいですよね。

高齢入居者の安否確認サービス「見まもっTEL」は、利用者の健康状態を電話（自動音声ガイダンス）で確認し、家族にメールで報告するサービスです。利用者が簡単なガイダンスに従ってその日の調子をボタンで選択すると、離れた暮らすご家族等（5名まで可能）にメールで通知されます。対応がなかったり、誤ったボタンが押された場合もメールで通知されます。また、健康状態に不安等がある場合はオペレーター（看護師・臨床心理士が常駐）と電話で健康相談等もできるサービスです。

週2回、体調の状況をメールでお届けしますので、「体調が優れない」というメールを受けた時には、電話をするといったきっかけにされてはいかがでしょうか。

Project Member's Voice

営業1課 浜田 健一郎



お客様と特にこだわったリフレッシュコーナーは13Fからの眺望を昼夜楽しめるように窓に向けたハイカウンターを設置。

またグリーンのチェアと明るい木目天板のフリーアドレスデスクの組み合わせにより、窓からの自然光をふんだんにとりいれられたオフィスはナチュラルで解放感のあふれるものになり社員の皆様の働き方と意識改革にもつながっているとお声もいただきました。

ご担当の榊原様・石山様のご協力のもとご満足のいくオフィスづくりができたこと、お仕事を一緒にさせていただけたことに大変感謝いたします。